

信州山ノ内湯田中 角間川ボルダ― Ver.4.00

平成30年11月1日 RCT/K

北信州という地域はクライミングエリアが少なく、ボルダリングエリアもまた目立ったものは無い。雪が多いためか、熱心に探すボルダラーもいないのであろうが、探せば見つけれられるもので、このボルダ―エリアもその一つである。

定年退職後は信州の実家で過ごすことが多くなり、当然時間の空いた時には小さなボルダ―でも良いのでちょっと触りたくなるものである。

昔の記憶や地図を手掛かりに、できれば1時間以内に行ける場所ということであちこち探してみると、山ノ内町湯田中温泉の先に、ある程度まとまったボルダ―群を見つけることができた。当然冬は雪に閉ざされてしまうが、4月から11月頃までは楽しむことができ、半日程度でも遊んで来れるので、自分にとっては、なかなか重宝なエリアとなっている。

私がこのエリアを初めて見つけた時に、岩小屋やサンシャインエリアの岩には他のボルダラーがトライしたと思われる形跡が見られたが、大掛かりな開拓はされていないようであった。地元のクライマーには知られているエリアであると思われるが、その後何回か訪れているがボルダラーを見かけたことはない。名称については勝手に付けさせていただいたが、このエリアをトライされている方で、この記録をご覧になった方はこちらに一報入れていただけるとありがたい。

岩質については、安山岩や流紋岩、溶結性凝灰岩等々、いろいろな種類の岩があるようで、はっきり言ってよく判らない。

アクセスは車利用が良い。場所は、湯田中温泉から志賀高原方面へ国道292号を進み、上林温泉を過ぎて最初のカーブを曲がった所から左に林道に入る。林道は一部舗装があるものの、ほとんどがダートであり整備されておらず、左斜面からの落石も多ので注意しながら進むのが良い。オフロード車でなくとも、一般車でなんとか入れるが、夏場は道路両サイドの草が茂るので、気になる人は、手前に車を置いて歩いても左程遠くない距離である。また、初夏以降はアプローチに草が茂るので、荒草程度を伐採できる鎌を持参した方が良い。

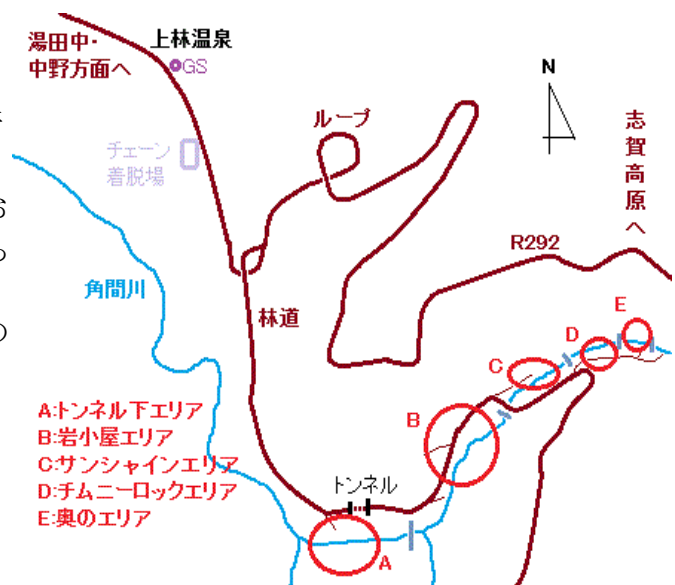
なお、平成30年8月現在、トンネル出口で上部の岩場からの大崩落があり、林道上に多量の岩塊が堆積して通行不能となっている。今後いつ開通するのか定かではないが、開通したとしてもまた何時新たに崩落するか分からないので、心配な人はトンネル手前に駐車して徒歩で入ったほうが良い。

駐車はところどころにできるが、林業関係者や釣り師なども入るので、他の車の迷惑にならないように停めてもらいたい。

なお、雪の多い地域なので、春先は林道が雪解け水で崩れていたりするので、雪解け後は奥まで入れないことがある。その場合はトンネル手前より徒歩になる。

また、ここも他の例に漏れず、産業廃棄物の不法投棄やポイ捨てが多く、特に河原でバーベキューをし、そのまま道具や食器まで捨てて帰ってしまっている者もいる。廃タイヤや粗大ごみを除き、エリア内の多くは持ち帰り処分したが、まだまだ途中の駐車スペースや林道脇の植林帯の中には沢山のゴミがそのまま残されている。あまり酷くなると、林道そのものが進入禁止となってしまうのではないかと懸念するところである。

トイレについては、アクセス途中の「道の駅北信州やまのうち」にあるので、必ず済ませて行くようお願いしたい。



なお、今回紹介するエリアは、トポの作成が終わった「トンネル下エリア」と「岩小屋エリア」のみである。他のエリアについては、今後、トポが出来上がり次第、順次追加改訂していく予定である。

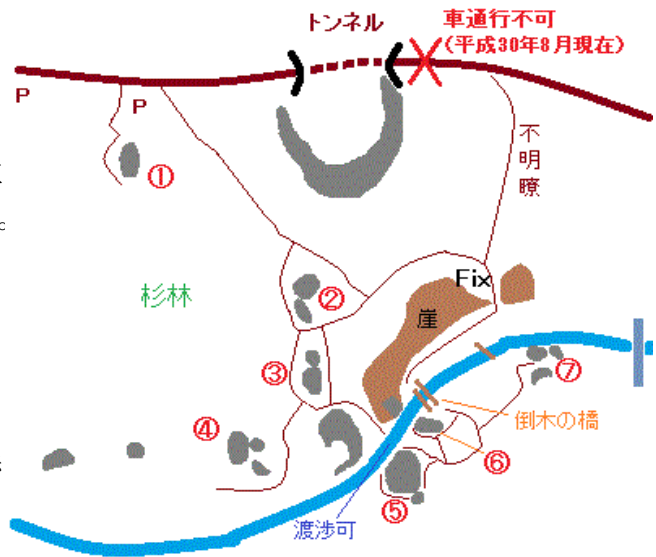
《A:トンネル下エリア》

ボルダーへのアプローチについては、スノーロックへは、駐車スペースから岩の頭が見えるので、それに向かって適当に斜面を降りていくと直ぐである。

川沿いのボルダーへは、トンネル手前の駐車スペースから杉の植林帯の踏み跡を下っていく。川から一段上がった右岸の山の斜面に、幾つかボルダーが転がっているが、植林帯の中なので雨後の乾きは悪く、苔が付きやすい。

左岸のボルダーへのアプローチは、右岸のボルダーから、河原まで降り、浅い部分を狙って大岩側に渡渉すれば容易である。できれば渡渉用のサンダルを持参すると良い。

もし渡渉を避けるつもりなら、踏み跡を上流方向に辿り、崖の上をトラバースしてから踏み跡に導かれて河原に降り立つ。そこから少し下流に行くと、流木の丸太が橋状に対岸に渡っている。渡渉なしで行けるが、大きなクラッシュパッドを背負っていくにはちょっと面倒である。

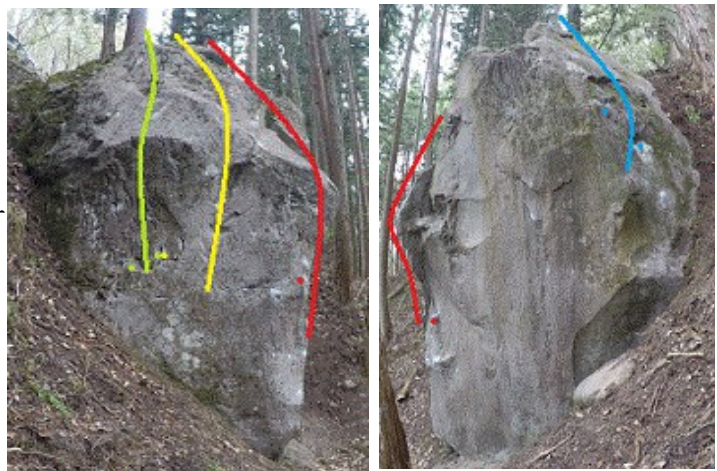


①スノー・ロック (下にスノーボードが捨てられていたでこの名称となった)

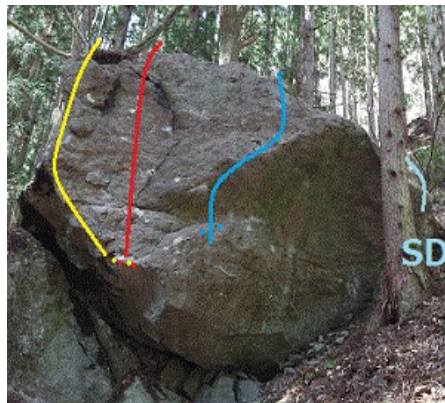
左:南西面 右:北東面

ハイボールで高さがあるが、上部は易しい。しかし上部で落ちると斜面を転げ落ちるので緊張する。

課題としては赤ライン(課題名:スノーボーダー)がお薦め。



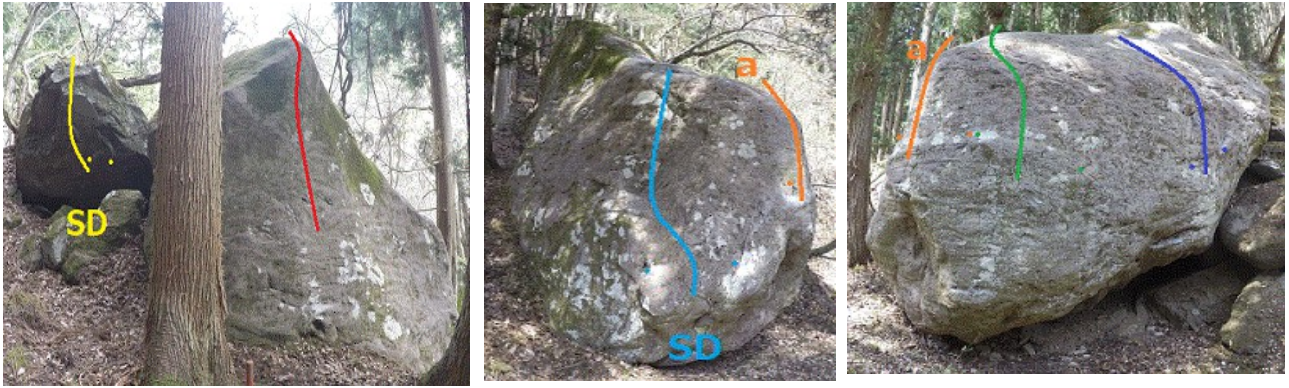
②コゴミ岩 (林道から下って行って最初にある2つの岩。この周辺でコゴミが採れる)



左:下の岩 右:コゴミ岩 (上の岩 ハイボール)

コゴミ岩の南東面の赤ライン(課題名:巖となりて)と青ライン(課題名:苔のむすまで)がそこそこ面白い。

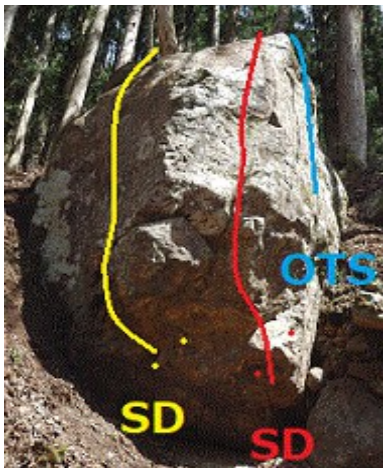
③ゴマちゃん岩 (②のさらに下にある2つの岩。川側から見るとゴマちゃんっポイ)



左:上の岩とゴマちゃん岩西面 中央:ゴマちゃん岩南面 右:ゴマちゃん岩東面

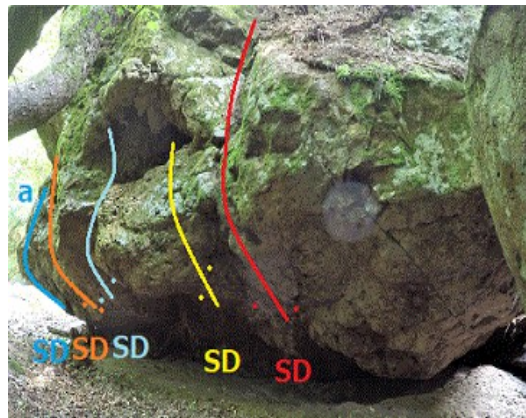
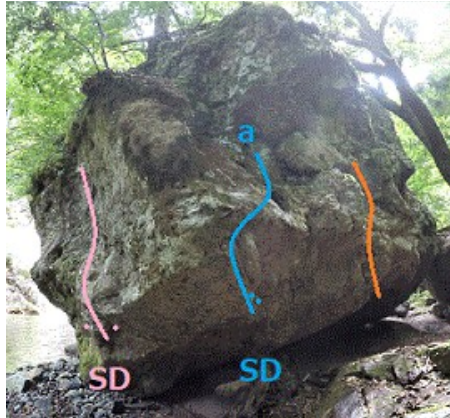
東面の緑(課題名:ひらお)と紺(課題名:Go!Go!ゴマちゃん SDは未解決)のラインが面白い。
オレンジラインのSDは未解決。

④桜岩 (下流側に下るところにあるハイボール。山桜が咲くころにトライ)



赤ライン(課題名:山桜)がお薦め。上部は易しい。
黄色ラインは下部は易しいが、上部で左に寄ると難しくなり、下地が傾斜地なのでフォール時は注意。

⑤大岩(左岸に渡渉したところにある大きな岩)

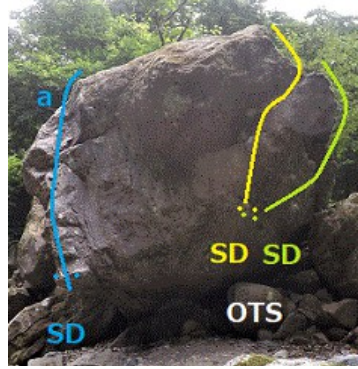
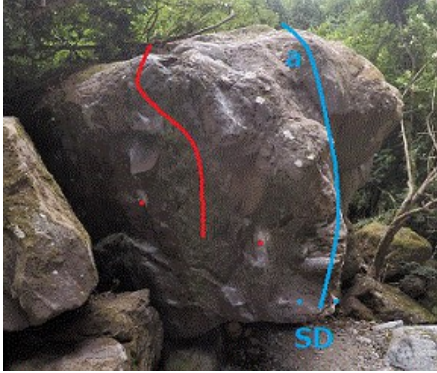


左:下流側左 右:下流側右

このエリアで一番大きなボルダーで6m程あるが、現在設定されている課題は、下部を登るもののみである。山側のハングに、水平クラックから上部カンテを登る課題を設定

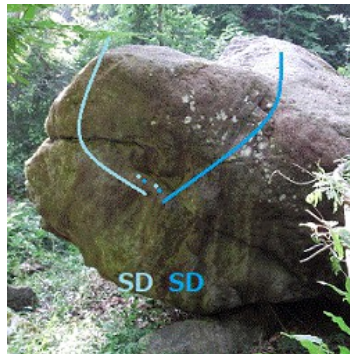
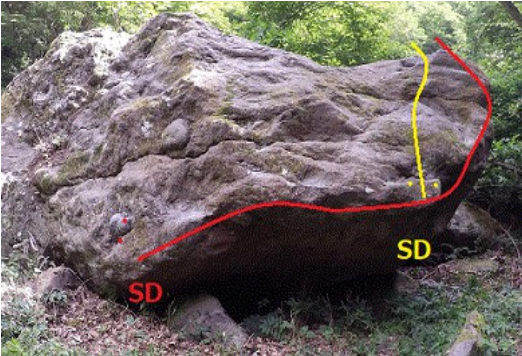
予定であるが、下に流木の根があり危険なため、掃除はしたが現在未トライである。
この岩は流紋岩のような感じの岩質で、各課題は、被ってはいるが、穴が多く登りやすい。

⑥コブ岩(倒木橋の直ぐ下流にある岩)



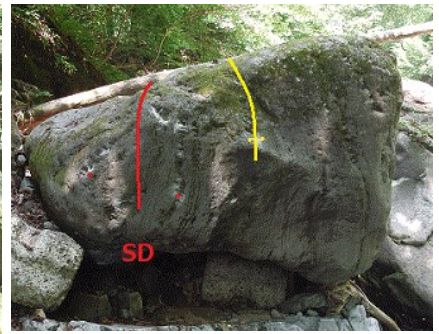
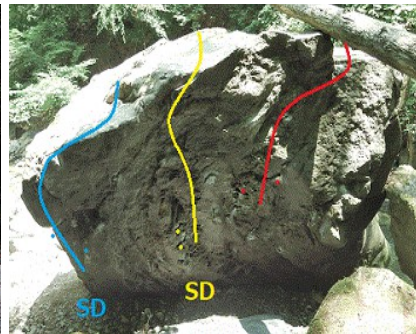
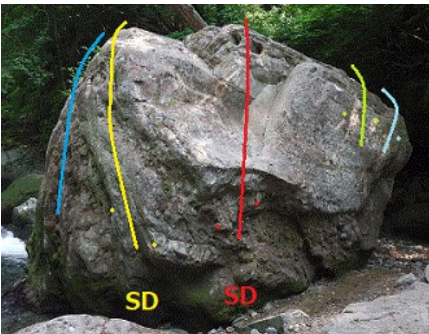
左:川側上流面 右:川側下流面
左下:山側左側 右下:山側右側

山側面に顕著なコブのある岩。
川側は、赤ライン(課題名:激暑)と青ライン(課題名:猛暑)が楽しめる。
黄色ラインと黄緑ラインは石に腰かけてスタートする。



山側は左の赤ライン(課題名:瘤取り爺さん)が面白い。

⑦ゴルジュ・ロックス(大堰堤下の小ゴルジュ下流にある岩。)



左:下流の岩下流側 中央:下流の岩山側 右:上流の岩上流側

このボルダーは、夏は日陰で、上部の堰堤の滝からの涼しい風で、暑さを避けるには良い。紹介した岩の他に山側にもう一つ岩があるが、下地が悪く、掃除も大変そうなので手つかずである。日陰で涼しい反面、下流側の岩の山側は結露しやすい。

課題としては、下流の岩下流側の赤ライン(課題名:土用東風)、上流の岩赤ライン(課題名:スクラム ボルダーの前にあった大きな石をスクラムで押すようにして転がし取り除いた)がそこそこ面白い。

下流の岩山側の赤ライン(課題名:一刀両断)のSDは未解決。

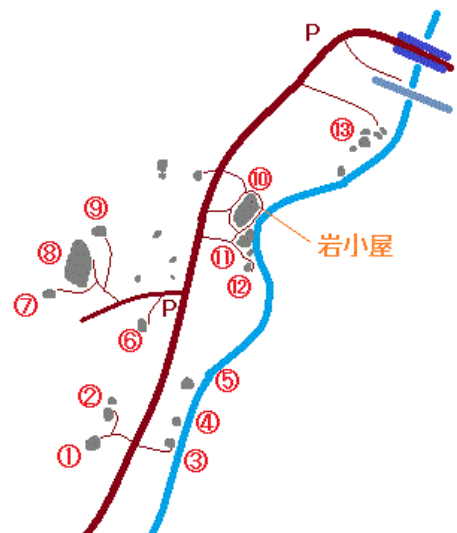
《B:岩小屋エリア》

道路左に丸い⑥ハローロックが見えると、直ぐ左に駐車スペースがある。

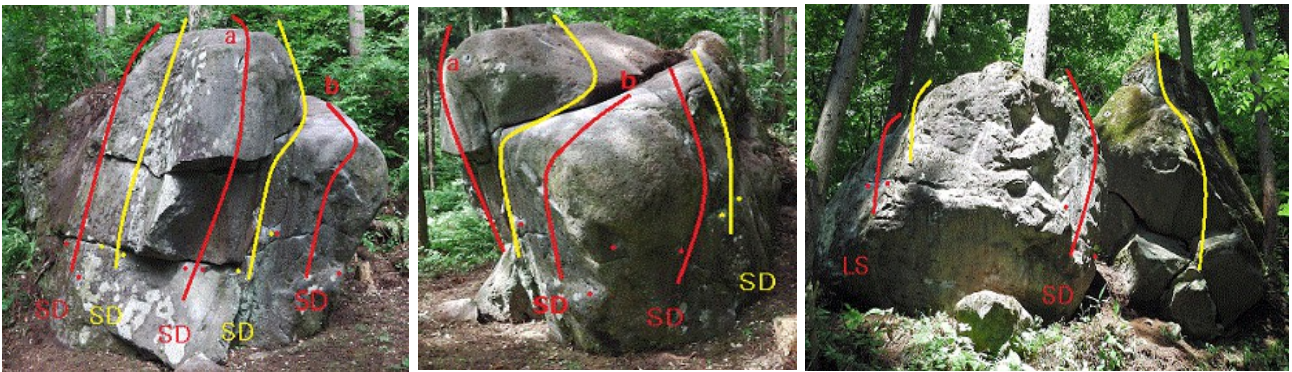
アプローチについては次の通りである。

①兜岩と②へは林道を少し戻った所から山側に土手を降りる。
 ③④⑤へは同じ辺りから反対側の川原への踏み跡を降りる。
 ⑦⑧⑨へは駐車スペースから山側に廃道を入ると右手に岩が見えてくる。⑩の岩小屋と⑪スライドロック、⑫曲がり杉岩へは林道から右入れば直ぐである。⑬へは林道を先に進み、橋の手前の駐車スペースに車を置き、少し戻って踏み跡を河原に出ると、下流方面に岩が見える。

⑥と⑩岩小屋、⑪は他のボルダラーが手を付けた形跡があった。



①兜岩(まさに兜のような岩)



左:兜岩左側 中央:兜岩右側 右:②無名岩

上に兜のような岩が載っている。難しいかと思っただが、掃除をしてみたら意外とホールドがあり易しかった。しかしラインの取り方で難しい課題ができそうである。赤aのラインの課題名は「鉄兜」。ムーヴ的には赤bライン(課題名:カブト虫)が面白い

②無名岩

①から山側に見える2つ並んだ岩。向かって右の岩はガバで易しい。左の岩はSDでトライすると、数手だが登りごたえがある。

③無名岩

林道から川原に降りて最初の岩。上流側はマントル課題。林道側と下流側はSDの限定課題。

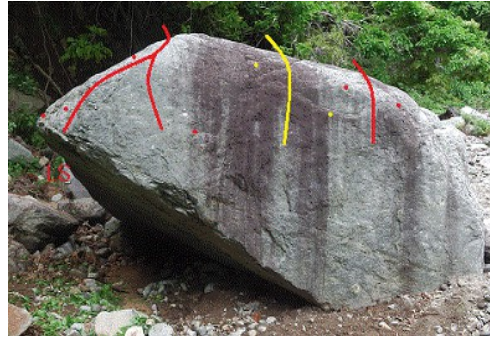
④無名岩

③の上流側の小さな岩。SDの限定で遊ぶ。



左:③無名岩下流側 中央:③無名岩上流側 右:④無名岩

⑤ガマ岩



左:林道側 右:下流側

④のさらに上流にあるハングを持った岩。リップ付近のホールドからマントリングで登る課題が数本ある。

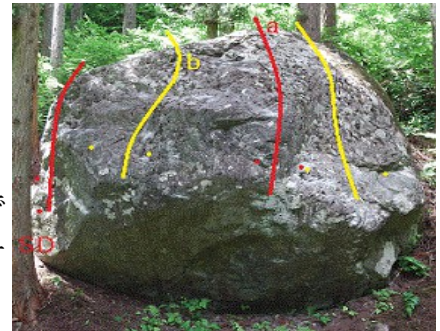
ハングトップからスタートするLS課題(課題名:ガ

マの油)はちょっとお奨めだったが、一冬過ぎたら下地が上がってしまい面白味が半減してしまった。今後、SDなどでトライすればまだ遊べそう。

⑥ハローロック

このボルダーは、ボルダーを探しに行った時に、最初に目にしたボルダーである。当時少し苔を落としたような雰囲気があったので、トライされた可能性がある。

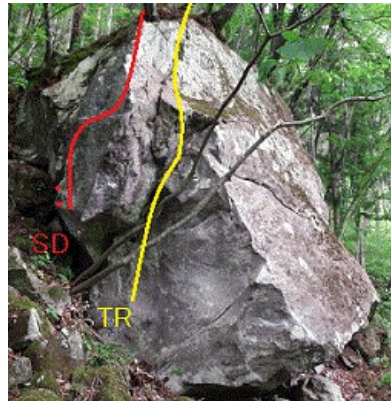
一応苔を落とし何本か課題を登ったが、まずまず楽しむことができた。赤 a の課題名は「チャオ」、黄色 b の課題名は「ボンジュール」。



⑦無名岩

屋根岩の左上にある縦長のボルダー。ガバで引きつけ、足を上げデッドで飛ばす実質一手の課題。

⑧屋根岩(大きな屋根型をしたハイボルダー)



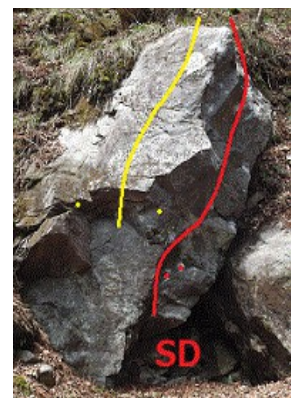
左:⑦無名岩 中央:屋根岩側壁 右:屋根岩正面

下が傾斜地なので、安全面を考慮して、側壁の左の赤ラインを除いてはトップロープ課題とした。

⑨傾き岩(⑧の右下にある右に傾いた岩)

赤ライン(課題名:湯けぶり地蔵)はムーヴがあり面白い。

下地は安定しているが、右のラインは落ちると右の岩に当たる可能性があるので注意が必要。

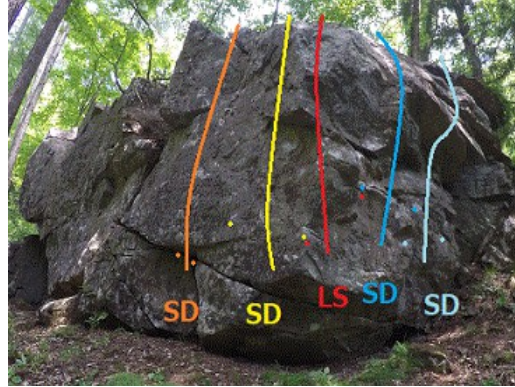
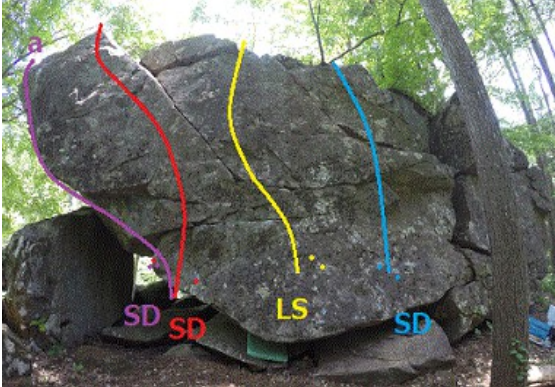


⑩岩小屋岩



ハング部分に浮石を剥がしたような痕があり、最初に見た時には、薄っすらとチョーク跡が見られたので、トライされ課題ができている可能性がある。ボルダラーが来ていることが確認できたが、その後何回か行ったが、会うこともなく、来ている様子は見られなかった。ハングには浮石を落とした跡が見られ、下から登れば相当難しい課題になりそうである。なおカンテやハングの浮石を落としてライン設定したのは私ではなく、私が訪れた時には、既に落とされていたものである。

林道側のフェイスは苔だらけだったので、掃除して易しい課題を



何本か設定した。

上:川側ハング 下左:林道側左フェイス 下右:林道側右フェイス

左フェイスの紫 a(課題名:スノーモンキー 被ったカンテ。登られている可能性あり)と紫 b(課題名:龍王)、赤ライン(課題名:湯めぐり手形 上部で右の凹角に出ない)、黄色ライン(課題名:掛け流し 左の凹角と右のクラックは使用しない。フットホールドは可)辺りが楽しめる。

川側ハングのオレンジラインは途中のホールドにタッチして終了とした。

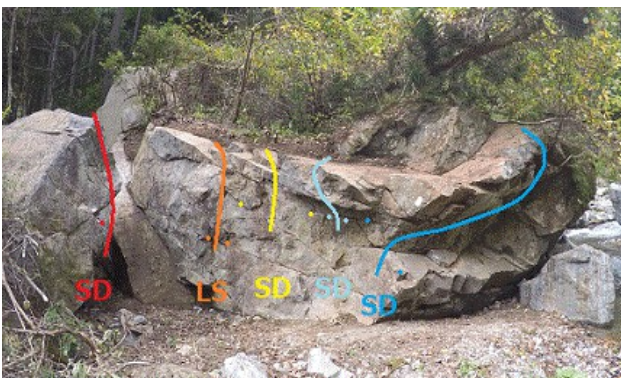
⑪スライドロック(このボルダラーは、スクイズチムニーにより川側と林道側に分かれた2つの岩で成り立っている。下流側にも小さな岩がある)



左:林道側
右:下流側

下:川側&下流側の小岩

林道側のハング右側は何とか見えそうなホールドが続いていたが、



浮石で剥がれ落ちてしまったので、仕方なく、左の岩とステミングし、リップ付近の小さなカチホールドを取って登る限定気味のライン(黄緑ライン)とした。

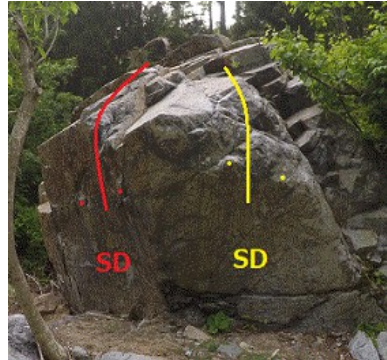
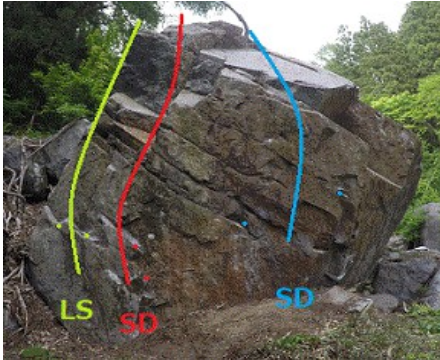
お奨めの課題は特にないが、下流側のオレンジライン(カンテを使って左上)と川側の青ライン(最後までリップを使わないでトラヴァース)がますます面白い。

下流側の小さな岩は小さいながらも課題が6本あり、SDで限定していろいろと遊べる。

左:小岩スライドロック側
右:小岩下流側



⑫曲がり杉岩(上に曲がった杉が1本あり)

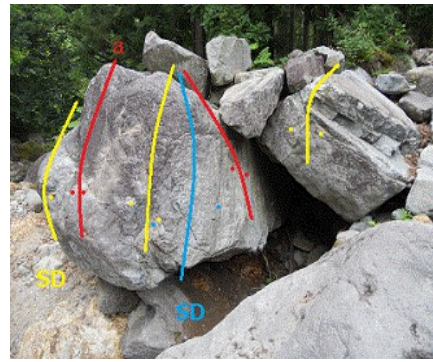
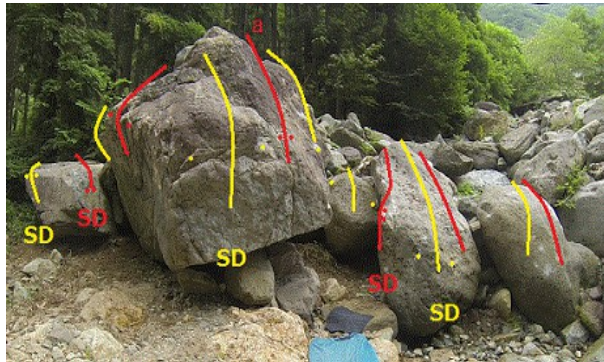


左:下流側 右:川側

完全に藁に覆われていて、取り払うまではボルダーとして遊べるとは全く思っていなかった岩。上は傾斜が落ちてしまい、実質は2m程だが、SDで限定して遊べる。結露に強い岩なので他が登れないときに重宝である。

今後、SD限定のラインが新たに追加できる可能性がある。

⑬橋の下流の小ボルダー群



左:下流側
右:川側

下左:下流の岩
下流側
下右:下流の岩
上流側



上の橋から見下ろすと、僅かに見える川原の幾つかの小さなボルダーの集まり。いろいろなラインがありちょっと遊ぶには楽しいところである。

川の氾濫後は下地が変化し取り付けなくなってしまうことがある。

10m程下流にも小さなボルダーがあり、周りに3本ほど課題がある。

《C:サンシャインエリア》

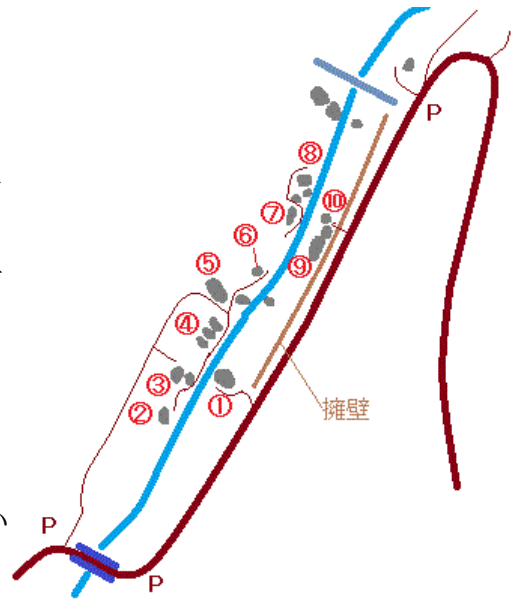
橋から林道のカーブ横の堰堤下までのエリア。広い河原ではないが、明るく青空が広がり気持ちが良い。①と⑨のボルダーにトライされた形跡があった。なお堰堤下に大きなボルダーが2つあるが、汚れた状態であり未トライである。

アプローチについては、手前の橋の付近か林道のカーブ手前に駐車し、①蜚蜚岩周辺は林道から踏み跡を降りる。右岸へは飛び石伝いに渡る。⑨イエティロックへは岩の上辺りの擁壁にフィックスを付けたので、それを利用するのが早い。右岸へは適当に飛び石伝いに渡るか浅瀬を渡渉する。

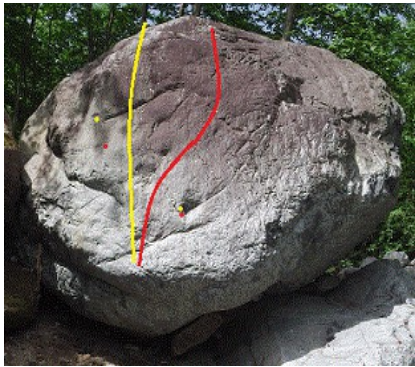
なお右岸のボルダーへは、春先までは雑草が伸びていないので、橋の駐車スペースから右岸の林の中の踏み跡を辿っていくと容易にアプローチ可能である。

また、平成30年10月現在、トンネルより先は車が入れないため、釣り人以外はほとんど人が入らず林道が荒れてしまい、各ボルダーへのアプローチも夏草が生い茂り入口が良く分からなくなってしまった。林道が開通するまでは、ボルダーのトライについては春先から梅雨入りまでぐらいが良い。

注意点として、この付近は火山灰の堆積した崩れやすい土壌であり、⑦ナマコ岩と⑧一ツ目岩は山の斜面の上部から落石の可能性があるため、トライ以外の時間は岩陰にいた方が無難である。

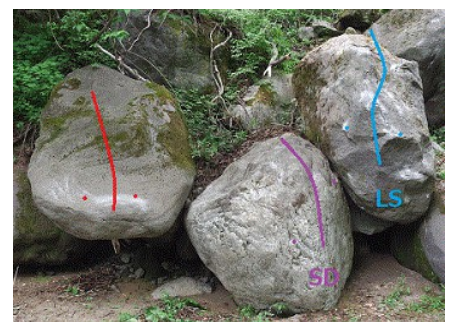
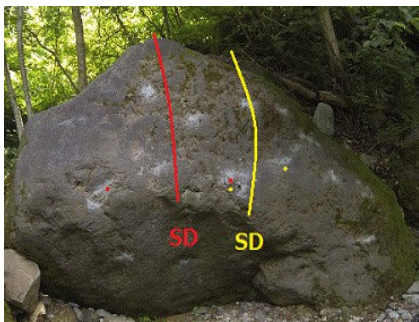


①蜚蜚岩



左:上流側 右:下流側

大きめの岩で、上流側はスラブ、下流側は前傾壁となっている。課題数は少なく、下流側の赤aライン(課題名:かげろふのものはかなげにとびちがふを)がそこそこ面白い。



左:②無名岩 中央:③無名岩 右:三兄弟

②無名岩

右岸の一番下のボルダー。小さい岩だが、SD課題が意外と面白い。

③無名岩

手前の岩は、川側と下流側に SD 課題がある。
奥の岩は、易しい課題が1本のみで、SDは未解決。

④三兄弟(上流側から、長男岩、二男岩、三男岩。)

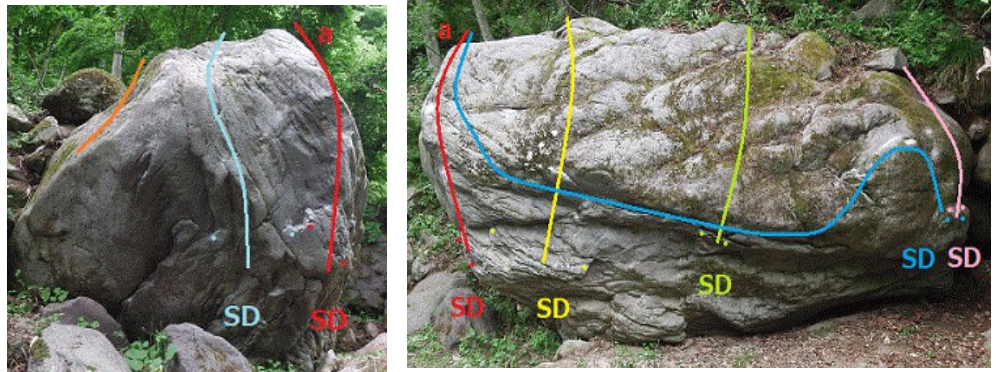
サブマリンロックから一段下に降りた河原にある3つ並んだ岩で、長男岩の課題(青 課題名:長男)が面白い。

⑤サブマリンロック

左:川側 右:上流側

このボルダーは、太い蔦に覆われ掃除が大変であったが、そこそこ楽しめるボルダーになった。

課題としては青ライン(課題名:沈黙の艦隊)、赤ライン(課題名:シーバット)、水色ライン(課題名:蒼龍)などが面白い。



川沿いのボルダーは、左から右端まで行き戻ってくるリターン課題がある。下地の変化が激しい。

⑥無名岩

このボルダーは、⑤の上流にあり、手前に木が倒れて生えている。

左:サブマリンロックの川原の岩
右:⑥無名岩

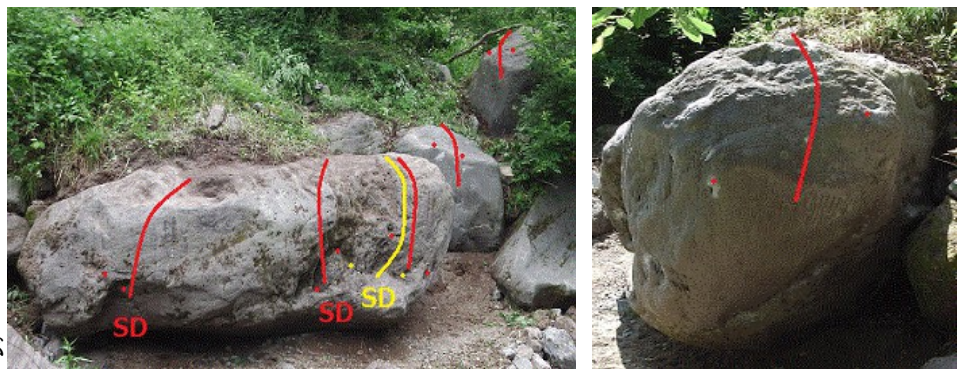


⑦ナマコ岩

左:川側 右:上流側

背が低いボルダーだが、横に長く、穴も多いので、SDでいろいろと遊べる。

春先に、上部からの崩壊による土砂なのか、雪解けによる土砂なのか分からないが、下流側が少し埋まってしまっていた。その後、川の増水で下地が下がったが、斜面の上部からの落石でまた埋まるなど変化が激しい。落石が危険なので、岩の側で休憩するようなことは避けた方が良い。



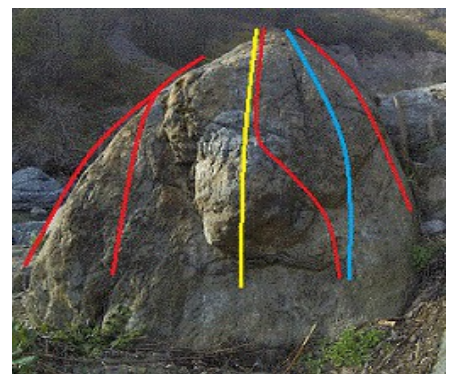
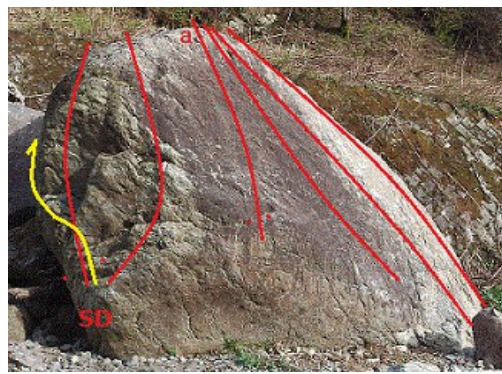
⑧一ツ目岩(上流側のハング上に目立つ穴がある)

赤のSD課題(課題名:一ツ目小僧)は穴を使ってスラブに這い上がっていく。

下流側にマントル課題(ナマコ岩川側トポの右奥の課題)もある。



⑨イエティ・ロック(仮称 雪男の頭皮に似ているところから)



左:上流側 中央:川側 右:擁壁側

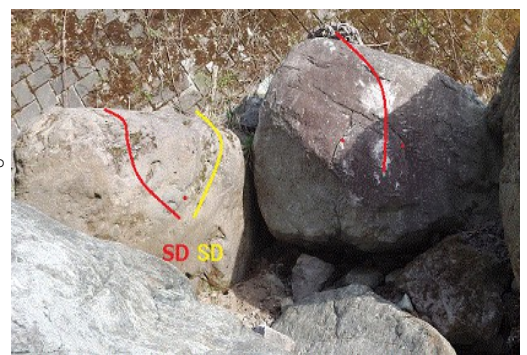
上の堰堤から下流方面を見下ろすと、最も目立つボルダーである。林道側から堰堤を簡単に降りられるようフィックスを張ったので、簡単にアプローチができる。岩の周囲に課題が何本もあり、明るく開けた川原でのんびりとボルダリングができるのでお奨めのボルダーである。

この岩は、他者によりトライされた跡があったので、既に課題が何本か設定されていると思われる。

課題としては、上流側の黄色ライン(課題名:雪男伝説)、川側の赤 a(課題名:カモシカかも)、擁壁側の青ライン(課題名:ヒグマ フェイスが熊の顔のように見える)などが楽しめる。

⑩無名岩

イエティ・ロックの上流側にある小さな2つのボルダー。課題が3本で、左の岩にはSD課題(右抜けと左抜け)2本、右の岩にはスタートホールド限定のスラブ課題がある。

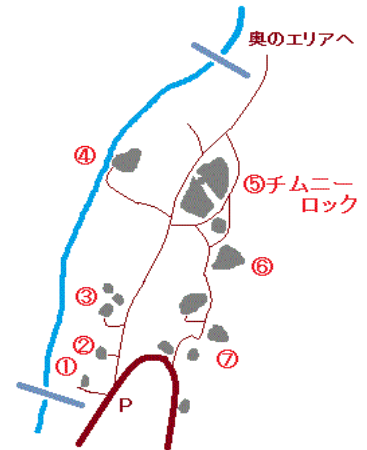


《D:チムニーロックエリア》

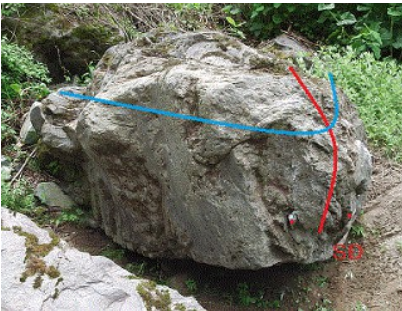
林道が谷から離れる大きくカーブした付近から廃道を少し入ったところにあるボルダー群。林道のカーブに何台か止められる駐車スペースがある。

各ボルダーへのアプローチについては、駐車スペースから昔の堰堤工事の廃道を利用する。

⑤チムニーロックまでの左の川原に①②③がある。④は⑤から川原を行くのが藪がなくて良い。⑥は⑤の直ぐ傍にある。⑦は林道のカーブしたところから直接行った方が早い、⑤からもアプローチできる。

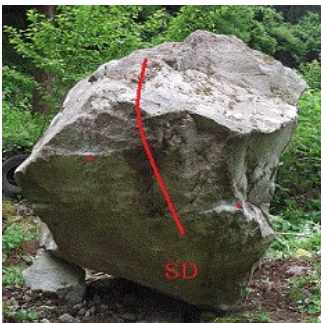


①無名岩



駐車スペースから川原に出たところにある小さな岩。SDとトラヴァース課題がある。

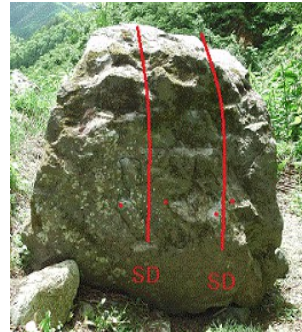
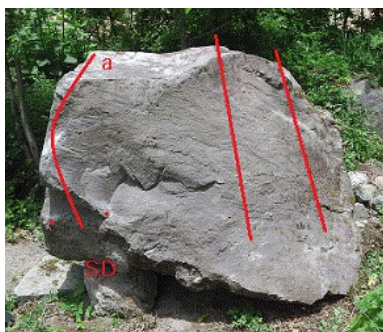
②下のイタドリ岩(この付近は大きなイタドリが多く、ボルダー周辺にも背丈を超えるほどのものが沢山生えている)



小さなボルダーだが、SD課題やノーハンドスラブでいろいろと遊べる

左:川側 中央:下流側 右:山側

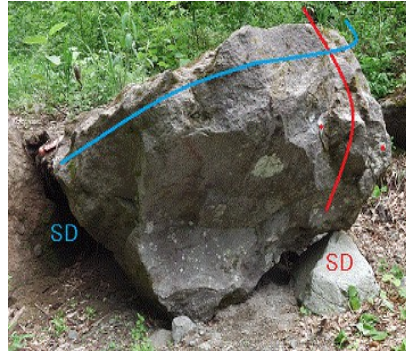
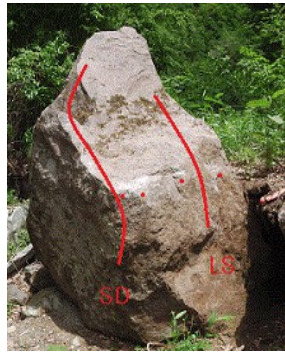
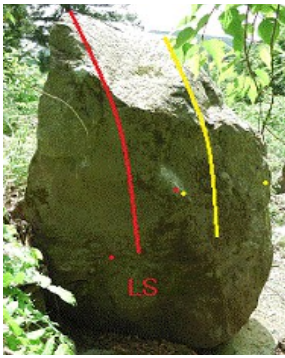
③イタドリ岩&上のイタドリ岩



左:イタドリ岩山側
中央:上流側
右:川側

課題としては、山側の赤a(課題名:スカンポ)が面白い。

このイタドリ岩周辺は、夏季には夏草が生い茂り、トライするには周囲の整備のため、鎌が必要である。

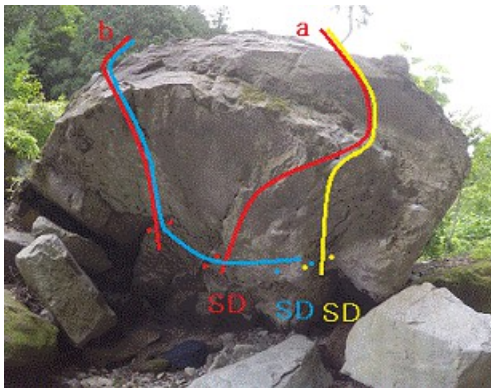


左&中央:上のイタドリ岩

右:上のイタドリ岩横のボルダー

イタドリ岩の上流側にある2つの小さなボルダーで、SD 課題やトラヴァース課題が何本かある。

④滝壺岩



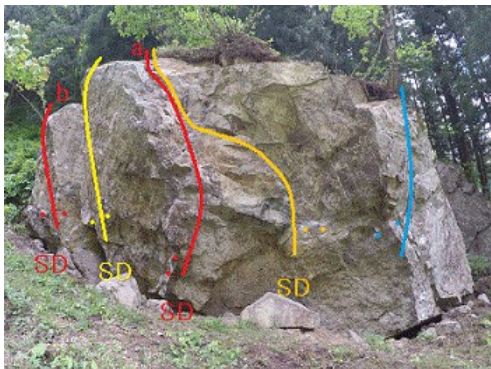
少し離れた川原の川横にあるハイボルダー。上に小さな松の木があり、滝壺側がハングになっている。

浮石を撤去したり、下地を整備したので安定したが、ちょっと脆い部分があり、落ちた時に滝壺に落ちないように注意が必要。

なお、平成30年秋の台風により、川筋が大きく変化し、台風後は増水もあって全く取り付けない状態であった。今後水量が大幅に減少しないとトライできないかもしれない。また、上の藤蔓も伸びてしまい、再トライには整備が必要と思われる。

課題としては、赤 a(課題名:うたかた)と青ライン(課題名:青嵐)がお奨め。

⑤チムニーロック(大きく2つに割れ、チムニーにチョックストーンが挟まったハイボルダー)



上左:川側 上中央:スラブ 上右:山側 右:傍の小さな岩

周囲とチムニー内に多くの課題がある。難しいものは現在まだ設定されていないが、川側の現在ある課題の間に設定できそうである。チムニー内の課題は落ちると怪我をしやすいため十分配慮が必要である。他に、直ぐ傍の⑥シダ岩との間の小さな岩に SD 課題がある。

課題としては、川側のラインはどれもそこそこ面白いが、黄色ライン(課題名:山笑う)、オレンジライン(課題名:山粧う 石に腰かけスタート)辺りがお奨め。赤 aラインの課題名は「山滴る」、赤 bは「山眠る」、青ラインの課題名は「トックリバチ」。

チムニー内の赤 cと黄色ラインも意外と面白い。



⑥シダ岩



チムニーロックの直ぐ傍にある垂直の菱形フェイスのハイボルダー。上部に大きな浮石があったが、思い切って落としたので、安心してトライできるようになった。

黄色ラインの課題名は「鳥獣保護区」。掃除前にこの岩の前に「鳥獣保護区」の看板が転がっていた。今はチムニーロックのスラブの前に立ててある。

⑦ヤマブキ岩

林道から見えるボルダー。⑥からもアプローチできる。林道側のフェイスは落ちると一段下まで転がって落ちるので、下までマットを敷くなどの配慮が必要。赤 a のライン(課題名:大判小判がざっくざく)が面白い。



《E:奥のエリア》 現在開拓途上で、今後作成予定。